

授業科目名	【Gカリキュラム】 刑法(各論) I ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 刑法各論 I	選択	開講年次	【G】 2 【EF】 2	単位数	【G】 2 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】 教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-) / 【EF】 教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-)					
担当形態	単独	【G】 教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目 【EF】 教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	刑法における個々の犯罪はどのような場合に成立するのか (前半)	担当者	青木 陽介			
授業概要	<p>【概要】 刑法各論の講義では、主として刑法典に規定された個々の犯罪の成立要件について解説を行う。「刑法各論 I」では、個人的法益に対する罪(ただし、財産に対する罪のうちの強盗罪まで。)を取り扱う。</p> <p>【到達目標】 個々の犯罪の成立要件についての基本的な知識を習得し、それを自らの言葉で説明できるようになること、また、それを活用して事案を解決することができるようになること。</p>					
履修条件	特になし。ただし、刑法総論 I・II (担当者は問わない。) を履修済み又は併行して履修中であること、また、刑法各論 II (青木担当) も継続して履修することが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 指定しない。(授業開始前に、当日使用する資料を配布する。)</p> <p>【参考書】 西田典之〔補訂：橋爪隆〕『刑法各論(第7版)』(弘文堂 2018)、山口厚=佐伯仁志(編)『刑法判例百選 II 各論(第7版)』(有斐閣 2014)</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、生命に対する罪(1)：殺人罪、堕胎罪 予習：参考書の該当箇所(5頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
2	生命に対する罪(2)：遺棄罪、身体に対する罪(1)：暴行罪 予習：参考書の該当箇所(28頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
3	身体に対する罪(2)：傷害罪、危険運転致死傷罪 予習：参考書の該当箇所(43頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
4	自由に対する罪(1)：脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪 予習：参考書の該当箇所(74頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
5	自由に対する罪(2)：略取・誘拐罪、性的自由に対する罪 予習：参考書の該当箇所(85頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
6	自由に対する罪(3)：住居侵入罪 予習：参考書の該当箇所(109頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
7	秘密・名誉に対する罪：秘密漏示罪、名誉毀損罪 予習：参考書の該当箇所(116頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
8	信用・業務に対する罪：信用毀損罪、業務妨害罪 予習：参考書の該当箇所(136頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
9	財産犯総説、財産犯の保護法益 予習：参考書の該当箇所(148頁以下、164頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
10	窃盗罪(1)：占有概念、窃取 予習：参考書の該当箇所(151頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
11	窃盗罪(2)：不法領得の意思 予習：参考書の該当箇所(170頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
12	窃盗罪(3)：不動産侵奪罪、親族相盗例 予習：参考書の該当箇所(175頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
13	強盗罪(1)：強盗罪の成立要件全般、二項強盗 予習：参考書の該当箇所(182頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
14	強盗罪(2)：事後強盗罪、強盗致傷罪、強盗・強制性交等罪 予習：参考書の該当箇所(191頁以下)を読む。	復習：講義内容を整理・確認し、不明な箇所があれば参考書等で調べる。				
15	学習到達度確認試験及びその解説、答案の書き方 予習：配布資料・ノートの確認。	復習：試験問題で解けなかった箇所を、資料等で確認する。				
評価方法	学習到達度確認試験により評価する。					
評価基準	上記授業単元の内容について、問題の所在や判例・学説の状況をよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、試験を欠席した場合、評価不能のため「F」とする。					
その他	講義では適宜条文を参照するので、最新の六法(出版社は問わない)を必ず持参すること。 なお、私語等の授業を妨害する行為を行う学生に対して、退室を命じることがある。 ※G 判：法【-】 判【-】 情【-】 / EF 判：法【-】 判【-】 経【-】					